

東京区部と多摩のごみ排出量はどのくらい減少したか

田中 充（法政大学）

ごみ排出量の状況は、東京区部と多摩地区では大きく異なっている。

まず区部についてみると、2012年度の区ごとの排出総量では、最も排出量が多いのは世田谷区(人口 86 万人)の 22 万 0 千トン、次いで練馬区(71 万人)の 17 万 6 千トン、大田区(70 万人)の 16 万 3 千トンであり、人口の大きな区はごみ排出量も大きい傾向にある。これと比較するため 2000 年度の排出量をみると、足立区は 38 万 1 千トンと最大で、次いで世田谷区 32 万 0 千トン、江戸川区 30 万 3 千トンの順である。この間に、足立区は排出量 22 万 5 千トンを減らし、豊島区は 16 万 6 千トン、江戸川区は 14 万 5 千トンと、大幅に削減している状況がみて取れる。足立一区の削減量は、実に現在の世田谷区排出量分に相当する。また、23 区全体では 2000 年度の 384 万 6 千トンから 233 万 8 千トンと、12 年間に 160 万 7 千トンを減少させており、ごみ問題の改善に大きく寄与していることが分かる。

ごみ排出総量は、地域の人口や地域特性などによって大きく左右される。そこで、23 区の 1 人 1 日当たりごみ排出量を見てみよう。2012 年度の 1 人 1 日当たり排出量が最も大きいのは千代田区 1,059 g/日人であり、次いで中央区 899 g/日人、渋谷区 849 g/日人となっている。いずれも大きな事務所や業務ビル、飲食店等が密集する都心であり、居住人口は少ない地区である。反対に 1 人 1 日当たり排出量が少ないのは、荒川区 622 g/日人、中野区 625 g/日人などがあり、最大の千代田区に比べると約 59%の水準である。また、2000 年度から 2012 年度にかけて 1 人 1 日当たり排出量の推移をみると、千代田区と中央区の 1 人 1 日当たりの削減量が各々 5,477 g/日人、3,193 g/日人と際立って大きく、次いで豊島区 1,886 g/日人の減となっている。

これらの背景には、一般ごみに混入している業務系のごみ排出量が大きく抑制されたためと推測される。また、23 区をみた場合、ごみ排出総量の削減では住宅系の足立区や江戸川区における取り組みが進展

して大きな実績を上げているが、1 人 1 日当たり排出量では都心区の千代田区や中央区、繁華街を抱える豊島区が続いていることが分かる。

一方、多摩地区では、2012 年度の年間排出総量は、八王子市 (56 万人) の 16 万 1 千トン、町田市 (43 万人) の 11 万 7 千トン、府中市(25 万人) 5 万 9 千トンの順である。やはり人口の大小に応じて排出量は異なるが、全体的に区部に比べると排出量は少ない状況にある。これを 2000 年度からの 12 年間の排出量の削減状況に照らしてみると、八王子市 3 万 4 千トン、町田市 2 万 2 千トン、府中市 1 万 8 千トンの減少量となっている。

次に多摩地区の 1 人 1 日当たりごみ排出量を見てみよう。2012 年度の 1 人 1 日当たりごみ排出量が最も大きいのは、武蔵野市 863 g/日人、次いで羽村市 814 g/日人、立川市 803 g/日人である。反対に 1 人 1 日当たり排出量が少ない市は、小金井市 602 g/日人、府中市 647 g/日人、清瀬市 652 g/日人などがある。1 人 1 日排出量が最大の武蔵野市に比べると、最小の小金井市は約 70%の水準である。また、2000 年度から 2012 年度にかけて 1 人 1 日当たり排出量の削減は、日野市 309 g/日人、立川市 284 g/日人、町田市 256 g/日人という減少量となっている。

東京のごみ排出量の全体的な状況を俯瞰すると、多摩地区は、区部に比べて総体的にはごみ排出総量は少ないものの、ここ 12 年間の排出量の削減割合は、区部の方が相当に大きく減少している。また、住民 1 人 1 日当たり排出量をみると、多摩 26 市平均 731 g/日人であるのに対し、区部平均 718 g/日人であり、区部の方が小さくなっている点も注目される。これらは、区部におけるごみ減量施策やリサイクル施策は着実に進展しており、ごみ排出量の実態はこうした減量化施策の結果であると推測できる。

図1 東京区部の1人1日当たりごみ排出量

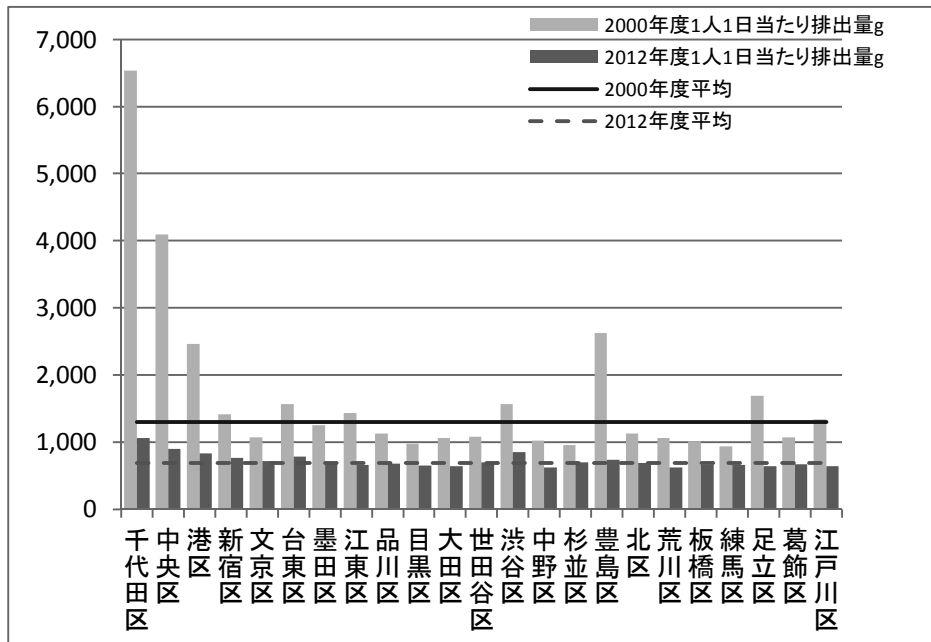


図2 多摩26市の1人1日当たりごみ排出量

